



豊後大野市の原尻の滝

空旅

田園広がる平地が凹形にくぼんでいる。「東洋のナイアガラ」とも称される豊後大野市緒方町にある滝は高さ約20m、幅約120m。巨人の足跡のような大きなへこみに緒方川の豊富な水が吸い込まれる。

ダイナミックな景観を生み出したのは、約9万年前に発生した阿蘇大噴火の火砕流でできた溶結凝灰岩。冷え固まるときに収縮して縦方向にひびが入り、川の水で浸食されて滝を造った。2013年に認定された「おおい豊後大野ジオパーク」の見どころの一つでもある。

周辺には多くのチューリップが植えられ、毎年春に多くの観光客でにぎわう。今季も色とりどりの花を咲かせたが、新型コロナウイルスの影響で各種イベントが中止となった。「早く収束し、来年こそは」。地元の人々は悠久の時間を経て形成された地質遺産に願いを込めた。

(山田志朗)

田園の神秘 巨大な“足跡”



緒方川の豊富な水が流れ落ちる原尻の滝（撮影・原田宏一）

田園の巨大なくぼみに緒方川の豊富な水が流れ落ちていきます。ドローン（小型無人機）で空から撮影した写真です。

2020年5月21日付大分合同新聞 14面

① “巨大なくぼみ” の名称・所在地・大きさを記入し、おおよその位置を地図に記してください。



名称／.....所在地／.....

大きさ／.....

② “巨大なくぼみ” はどのようにしてできましたか？

.....

③ ジオパークはジオ（地球、大地）とパーク（公園）を組み合わせた言葉です。あなたが住む市町村の景勝地や、地形・地質を生かした文化財、産業について調べてみましょう。

.....